

# 「歴史」を感じられる南幌フットパス フラットな田園地帯を歩き、「食農」



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)  
 (株)ジオ (THE-O) 代表取締役

1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。

## 地理や歴史を活かしたフットパス

田園風景はフットパスの景観要素としては王道と呼ばれるのですが、国内の私有地で大手を振って歩くのはそう簡単ではありません。しかし南幌町では田園風景を存分に味わいながら歩けるフットパスがあります。

空知地方の南部に位置し、札幌市から車で1時間もかからない場所にある南幌町。約81km<sup>2</sup>の大部分がフラットな農地になっており、石狩川、千歳川、夕張川など3つの河川に囲まれている町です。この町のフットパスはその地理や歴史を活かしたルートになっており、地域振興にもつながっています。

南幌町のフットパスはまず何と言ってもフラットな地形で老若男女が楽しめるのが魅力です。しかも田畑のあぜ道や北海道らしい防風林内、一級河川の河川敷、歴史ある運河沿いなど田園地帯のフットパスの王道です。

石狩平野の中でもっとも古い部類に入る幌向運河が町内を流れています。南幌フットパスのメインルートはこの運河と田畑を取り入れた「幌向運河歴史コース」です。幌向運河や駅通所、田畑そして南幌温泉と丸一日南幌をじっくりと楽しめるルートです。その上、野菜直売所もあるので、採れたての美味しい野菜などを購入しながら歩ける「買い物フットパス」にもなります。南幌町には駅がありませんが、市街地にバスターミナルがあり、ここが起点となります。

## ふらっと参加できる月例フットパス

この南幌フットパスでは月例フットパスを行っています。「NPO法人 ふらっと南幌」が主催し、毎回その時にあった特別なフットパスと「食農」を感じることのできるイベントです。すでに120回も開催されており、その間に悪天候のため中止になったのは数回程度という人気イベントになっています。申し込み不要(イ



田んぼのあぜ道を歩ける南幌のフットパス





べントによっては昼食やオプションの申込みが必要な場合もあります)で毎月第3日曜日に開催しており、バスターミナルに10:00に集合すればいいだけです。年間予定はWEBで公開されているだけでなく、チラシも配布されていますので、内容が事前に分かります。ファンも多くいて、毎回盛況です。

月例フットパスでは常設のフットパスを歩くのはもちろん、例えば美味しい野菜を栽培している農家を巡るルートを作り、採れたての野菜を購入できたり、シラカバ樹液や山菜を採って食べる回があったり、季節に合わせて多彩な内容と南幌でしか味わえない体験もプラスアルファで体感できます。毎年7月の月例は恒例の幌向運河の川下りを楽しみ、名物の南幌ジンギスカンを食べるパーティーフットパスを行うなどしています。もちろん冬期も実施しており、かんじきやスノーシューを利用したフットパス歩きへと変わります。見事にフットパスと地域の強みである「食農」「歴史」をつなげることに成功しており、フットパスを作ったり、実施する上でのいいお手本になっています。

### 新しい旅の形のロングパス

近年ではロング(フット)パス化も進めています。南幌町は前述したとおり、3つの大きな河川に囲まれた、いわば輪中のような町です。この河川をぐるりと回る「ぐるっと南幌ロングパス」や新千歳空港から長沼町、南幌町、江別市、札幌市へと至る松浦武四郎も見たであろう「縄文古道」と2ルートを企画し、毎年月例とは別に実施しています。

ぐるっと南幌ロングパスは河川沿いの環境や野生動物たちをじっくりと観察、感じながら歩けますし、現在、千歳川を中心とした河川では遊水地の復元工事が行われており、遊水地を歩く感覚のフットパスに進化することでしょう。



幌向運河をボートで川下りできるイベントもある

縄文古道は歩く市町の多さのとおり、1日ではとても歩けません。しかし田園地帯はもちろん、河川、森林、丘陵地、都市部などバラエティに富んだルートを歩けます。4、5日ほどかけて歩けるよう設定しており、その起終点がすべて温泉宿(一部除く)となっているのも疲れを癒せる嬉しい点です。道外からの訪問者であれば飛行機を降りたところから出発し、4、5日かけて札幌まで至るといった新しい旅の形にもなっています。

### 多彩なつながりを実現

最近私たちがよく協力してもらい、行っているのは「南幌フットパス」と「キャベツキムチづくり体験」、「野菜直売所巡り」を組み合わせたフットパスウォークです。南幌のフットパスは季節に合わせて多彩に組み合わせることができます。その季節に合ったルートを関係者にお聞きし、実際に歩きます。そしてそのルート途上や主な場所では直売所に寄ったり、農家を訪問し、野菜などを直接分けていただいたりします。美味しい南幌の食材を使った昼食を食べた後は南幌で採れたキャベツで作るキャベツキムチづくり体験をします。南幌町を歩いて、目で耳で足で直に感じ、美味しい食材のお土産を持ち帰り、美味しい食材に舌鼓を打ち、自ら名産品を作るという充実した内容です。

フットパスはツールとしてどのようなところともつなげることが可能です。物理的に“道”としてつながるのはもちろんですが、多彩な“つながり”を実現できるのです。南幌の場合は食農や歴史に特化しながら、自然や体験、俳句なども結びつけてフットパスの魅力を最大限に活かしています。もちろんフットパス自体も歩いていて楽しい魅力満点のルートばかりです。冬にも開催している月例フットパスがあるので、是非参加してみたいかがでしょうか？



歩いた後に行う、南幌名物のキャベツキムチづくり体験